

科 目 チーム医療演習 (Interprofessional education in health care)

担当教員 横田 浩充、松永 佳子、廣井 直樹、松尾 和廣

【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

近年、医療を取り巻く環境は、高齢社会、医療費抑制、専門分化などにより大きく変化した。日々医療が高度化し、医療従事者はこれまでとは比較にならないほど専門知識が必要とされている。また、在院日数の短縮に伴い業務量が増大している。この背景において、ひとりの患者に対して医療従事者がそれぞれの専門知識や医療技術を集結し、診療に活かす時代となっている。すなわち、患者を中心としたチーム医療が必要となっている。チーム医療に関する教育には現場でのOJT(On the Job Training)だけではなく、卒前教育においても多職種連携を想定した学習が求められている。本科目では東邦大学全学部全学科の学生が医療現場での事象を共通テーマとし、ワークショップ形式でそれらの事象の理解や問題の予防策ならびに解決策・対応策の具体的な提案を作成することにより、チーム医療を実践的に学ぶ。

<教育目標>

- (1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ
- (2) 自ら主体的に学ぶ力をもつ
- (3) 他者と協力して課題を解決する力をもつ

<具体的な項目>

- 専門分野における十分な基礎知識・基本技能 (1)
 関連する分野における概括的な基礎知識・基本技能 (1)
 根拠に基づいて科学的な推論を行い、結論を導く能力 (1)
 問題を多角的に把握し、問題解決に必要な知識・技能を同定し、不足する知識・技能を自覚し、自ら獲得できる力 (2)
 コミュニケーション能力・リーダーシップ、外国語を含む文章の読み書き能力 (3)
 問題解決のために積極的に他者と協働する態度 (3)
 多様性を受け入れる態度 (3)
 自然に対する畏敬の念、生命の尊重、人間としての謙虚な心をもつこと (3)

【2】 授業計画

No.	内 容
1	他学部との学生とのチームワーク、コミュニケーション、協働を学ぶ。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
2	チーム医療を理解する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
3	多職種連携のチーム医療について協議する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
4	多職種連携のチーム医療について調査する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
5	多職種連携のチーム医療について、グループ毎に発表する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
6	事例1 (症例) に対して各職種で可能なチーム医療について協議する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
7	事例1 (症例) の課題を明確にする。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
8	事例1 (症例) に対して各職種での役割について討議する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
9	事例1 (症例) に対して各職種で可能なチーム医療について、グループ毎に発表する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
10	事例2 (症例) に対して各職種で可能なチーム医療について協議する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
11	事例2 (症例) の課題を明確にする。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
12	事例2 (症例) に対して各職種での役割について討議する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
13	事例2 (症例) に対して各職種で可能なチーム医療について、グループ毎に発表する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
14	チーム医療について調査・協議したことを総括し発表する。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣
15	多職種連携のチーム医療についてレポートにまとめる。 担当教員：松永 佳子、横田 浩充、廣井 直樹、松尾 和廣

【3】 到達目標

- 1) 多職種連携・チーム医療について説明できる
- 2) 各職種の役割について説明できる
- 3) 望ましい多職種連携についての自分の考えを述べることができる
- 4) 異なる考え・視点を持つ学生を仲間として受け入れることができる
- 5) 異なる考え・視点を持つ学生と良好な関係を構築できる
- 6) 異なる考え・視点を持つ学生と議論できる

【4】 授業概要

本科目は夏季休暇中に集中授業として行う。具体的には、夏季休暇中に合宿によるWorkshop形式で、多職種連携・チーム医療について、少人数グループワークを中心とした学習を行う。

【5】 準備学習（予習・復習）および必要時間

チーム医療の文言の意味、意義について調査し予習（1時間）しておく。
また、当日配布された資料を参考に復習として、全ての演習が終了後にレポートを作成し提出する。レポート作成に1時間前後を要する。

【6】 教科書・参考書・参考資料

参考書：「チーム医療とは何か」，細田満和子，日本看護協会出版会

【7】 評価方法およびフィードバック

講義への出席・姿勢（30%）レポート（70%）により評価する。レポートは適宜コメントを入れ返却・指導する。

【8】 オフィスアワー

松永：月の8時～9時〔看護学部 家族・生殖看護学研究室〕

横田：月、火、木の15時以降〔理学部 1402A室〕また、演習期間中、随時対応する。

【9】 関連科目

〔予め学んでおくおよび科目〕

臨床検査総論Ⅰ

〔この科目に続く内容の科目〕

医学概論

【10】 その他

臨床検査技師の資格を取得し、病院等の医療機関での就職を希望する者には必須の科目である。